

第38回横浜マリノールカップ 男子Bゾーン決勝 7月23日(日)

汐見台ポシブルミニバスケットボールクラブ 37 vs 39 若宮バスケットボールクラブ

1Q

両チームともハーフコートのマンツーマンでゲームが始まる。汐見台#7のポストプレイから周りの選手の合わせのプレイ・シュートを外してもリバウンドを確実に取り点を決める。若宮も果敢に攻めるが、ミドルシュートが決まらずなかなか得点が取れない。若宮#6がゴール下のリバウンドシュートを連続で決めなんとか食らいつき、13-8 汐見台リードで第1Q終了。

2Q

両チーム共引き続きハーフコートのマンツーマンでゲームが進む。汐見台は#4・#8のドライブから点を重ねる。若宮は、#10のリバウンドシュートと、#13のパスカットからのブレイクが決まり、残り1分30秒で逆転。しかし、汐見台#11と#6がドライブインからシュートを決め、21-20 汐見台リードで前半終了。

3Q

汐見台はハーフコートマンツーマン、若宮はオールコートマンツーマンでゲームが始まる。開始1分30秒、汐見台#7のポストアップから鋭いドライブで点を稼ぐ。対する若宮は、#6のミドルシュートを決めて点差を詰める。汐見台#7が若宮#6のシュートをブロックし、追いつかれまいと踏ん張る。若宮もディフェンスをかなりタイトにし、汐見台#7にボールが入ると周囲のヘルプがポストに寄るが、汐見台#7から#4への合わせのプレイが決まり加点する。3Q終了間際、若宮#7が相手のファウルを誘い、カウントワンズローを獲得し逆転。29-32 若宮リードで3Q終了。

4Q

両チームとも3Qとメンバーは変わらず、ハーフコートマンツーマンでゲームが始まる。汐見台は#7のポストインからのドライブで点を稼ぐ。若宮は、#7・#10のナイスディフェンスでパスカットからの速攻で得点。汐見台はタイムアウトを取ってなんとか流れを引き寄せたかったが、最後は#7のシュートがリングに嫌われ、37-39 若宮バスケットボールクラブが接戦を制し優勝を飾った。

